

# アコウ稚魚 2500匹海へ



小さなバケツに入れてもらった  
アコウの稚魚を放流する園児ら  
|| 小豆島町苗羽

小豆島近海で釣りを楽しむ愛好家らでつくる内海地区漁場利用協定協議会（UFC）は17日、小豆島町苗羽の内海湾で地元の苗羽幼稚園（三好奈緒美園長）の園児らと一緒にアコウの稚魚を放流した。子どもたちは

## 小豆島、資源回復願い放流

「元気に育ってね」などと声をかけながら稚魚を見送り、成長を願った。同協議会は、マダイなどの好漁場である内海地区で漁業者と釣り愛好家のトラブルを防ごうと、内海漁協と県内外の遊漁者団体で発足。会員

から稚魚放流の協力金を集めるなどし、水産資源の回復を図っている。

放流には園児のほか、同漁協や県水産課などから合わせて約30人が参加。子どもたちは、漁協の担当者から稚魚の入った小さなバケツを受け取り、「大きくなって戻ってきて」「広い海でしっかり泳いで」などと声をかけながら、岸壁から計約2500匹を次々に放流した。

年長の大道翔太ちゃん（6）は「お魚が元気に泳いでいる姿を見られてうれしかった。みんなと一緒に、大きくなった姿を見るのが楽しみ」と話していた。